

島根県立  
古代出雲歴史博物館  
NEWS



CONTENTS

- 2・3 春の特集展「音曲の神さま—美保神社奉納鳴物—」特集
- 4・5 銀河鉄道歴博号<鉄>企画展「たたら製鉄と近代の幕開け」  
<銅>「ブロンズロード」 6 博物館だより「交流プログラム」
- 7 山陰歴史回廊<青谷上寺地遺跡展示館> 8 企画展案内等

2011.APRIL vol. 17

楽器を愛したるびすさま

古事記1300年  
音曲の神さま

美保神社奉納鳴物

2011年5月29日(日)～7月3日(日)



特集展

古事記1300年

# 音曲の神さま

—美保神社奉納鳴物—



松江市美保関町的美保神社は、三徳津姫命と事代主神を主祭神とする神社です。このうち、事代主神は、『古事記』『日本書紀』に登場する神さまで、大国主神の御子神として、大国主神とともに国譲りを受諾した神さまとして知られています。

美保神社がある美保関は、中世から近世にかけて海上交通の要衝として大きく栄えました。同時に、美保神社への信仰も高まり、福神として知られるエビス神と習合し、「明神さま」「エビスさま」と親しまれてきました。そし

て、美保の神さまは、鳴物が好きであるとの習俗が広く伝わり、これまで、たくさんの楽器が奉納されてきました。その数は、846点にもなります（国の重要有形民俗文化財指定）。

このたびの展覧会では、この奉納鳴物を一堂に紹介します。日本で最も古いオルゴールをはじめ、太鼓や小鼓などの打楽器、横笛や縦笛などの管楽器、三味線や琴などの弦楽器、さらには楽器のおもちゃまで、ふだんは目にする機会が少ない鳴物を、この機会にぜひご覧ください。

## 第1章 魚びすさまの本宮 美保神社

美保神社の概要と、エビス信仰との結びつきについて紹介します。

□主な展示品

三保両社神像一軸

出雲国美保神社真景図（慶応二年） など



## 第2章 青柴垣神事と諸手船神事

事代主神は、国譲りを受諾した時に、乗っていた船を青柴垣アヲシノキに変えて、そこに隠れたとされています。また、国譲りを迫った高天原の使者が乗ってきた船は、熊野諸手船クノノモリテノフネ（『日本書紀』と呼ばれています。こうした神話にちなむ神事が、有名な「青柴垣神事（4月7日）」と「諸手船神事（12月3日）」です。ここでは、この二つの神事を紹介します。

□主な展示品

青柴垣神事絵巻（昭和7年）

諸手船神事絵巻（昭和8年）

諸手船神事に使用された褌子服 など



## 第3章 奉納鳴物

鳴物好きの神さまであるとの習俗が広く伝わり、美保神社の信仰を特色づける奉納鳴物。江戸から明治時代にかけて地元の松江藩主をはじめ、全国各地の人々から奉納された鳴物や玩具の楽器を一堂に紹介します。

□主な展示品

小鼓（六代藩主 松平宗衍奉納）

能笛（朝日丹波奉納）

和琴（木曾源太郎奉納）

出雲琴（個人奉納）

オルゴール（軍艦八雲丸奉納）

※音もお楽しみいただけます

三味線・ハーモニカなどの玩具類 など約60点



## 特別講演会

### ◆「日本の伝統楽器—種類と歴史」

- 6月4日(土)
- 高桑いづみ氏(東京文化財研究所 舞形文化遺産部 舞形文化財研究室)

### ◆「美保神社鳴物」の成立(仮)

- 6月25日(土)
- 横山直村氏(美保神社司) 横山直正氏(美保神社神楽司)

### ◇音曲の神さまギャラリートーク

- 6月11日(土)・18日(土)・19日(日)・7月2日(土)
- 時間:いずれも11:00~14:00~の1日2回
- 常設展観覧料もしくはパスポートが必要です

時間:13:30~15:00

参加費:無料

定員:100名

場所:古代出雲歴史博物館講義室

申込:電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。

定員となり次第、締切とさせていただきます。



## 音曲会

—ONGYOKUE—いろいろな音を楽しむ音楽会

オープニング演奏会

### ◆「琴のしらべ」邦楽船越会

- 5月29日(日) 11:00~14:00~
- エントランスホール 無料



オルゴールを弾く♪手回しオルゴールによるステキな音楽会



### ◆「やさしいオルゴール」 宮本由利子コンサート

- 6月5日(日)11:00~
- エントランスホール 無料

圧倒的な太鼓サウンド!迫力のパフォーマンス!

### ◆「LIVE!出雲の太鼓」神戸川太鼓

- 6月12日(日)13:30~14:30
- 風土記の庭テラス 無料

※天候などにより、変更・中止になる場合があります。

民族音楽を奏でる!

最新のテクノロジーと融合するindigo blueワールド

### ◆「indigo blue work shop ライブ」

- 6月26日(日)11:00~
- エントランスホール 無料

楽器をつくるワークショップ

### ◆オルゴールをつくってみよう♪

- 6月12日(日)10:30~12:00
- 材料費:1,000円
- 定員:20名
- 古代出雲歴史博物館体験工房
- 申込:電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。

## 音遊会

しまね家庭の日  
ファミリーツアー

### ◆アテンダントによる 博物館の音めぐり

- 6月19日(日)10:00~16:00 随時受付 無料
- アテンダントが博物館内を楽しくご案内します。
- この日は、高校生以下の方は観覧無料!

# たたら製鉄

## たたら絵馬を読み解く

古代文化センター専門研究員 角田 徳幸

古代文化センターでは、平成23年10月7日に古代出雲歴史博物館で開催予定の企画展「たたら製鉄と近代の幕開け」の準備を進めています。たたら製鉄は、砂鉄と木炭を原料にした我が国独自の製鉄法で、その中心は良質な砂鉄と豊かな山林に恵まれた中国地方にあり、長く日本列島の鉄需要をまかなってきました。幕末・明治初期には最盛期を迎えますが、開国に伴って安価な洋鉄が流入したこと、洋式製鉄が開始されたことによって、大正末年までには概ねその姿を消してしまいました。現在では、美術刀剣用の鋼を生産している奥出雲町の日刀保鉦や、国内で唯一、高殿(製鉄場)が残っている雲南市吉田町の菅谷鉦を除けば、その状況を窺うことはできません。しかし、先人が鉄山の繁栄を祈って神社に奉納した絵馬や、掛軸・古文書などから、その様子を知ることができます。

大田市久利町山邊八代姫命神社に奉納された絵馬「鉄山大盛」は、石見沿岸部のたたら製鉄をよく示すものです。絵馬の中央、やや右寄りには煙が立ち上る高殿が描かれています。高殿は、平面形が横長長方形で、入口が長辺に付く平入りです。下屋根は瓦葺、上屋根は操業中に開放する火宇内があり板葺で、作業用の梯子と防火用水である飯銅甕が載っています。奥出雲の鉦は、平面形が正方形か隅丸方形で、入口は屋根の棟に対し平行に付く妻入ですから、非常に特徴的な建物であることが分かります。また、防火用水が樽ではなく飯銅甕に入れられること、下屋根に瓦が使われているところにも石見らしさがよく出ています。

高殿の周囲には、金屋子神社や砂鉄洗場、事務所である元小屋・鍛冶屋・炭窯・山内小屋(職人住居)などがあり、製鉄場全体の様子が詳細に描かれています。特に注目されるのは、絵馬の左下に川と川船が見えることです。石見東部沿岸部から江の川下流域では、砂鉄などの原料や鉄鉄などの製品を船で輸送したことが分かっており、この特色がこの絵馬にも端的に示されています。

たたら製鉄は、地域によってかなり違いがあり、製品の生産割合や生産・経営の方法に多様性があったことが明らかになりつつあります。たたら絵馬「鉄山大盛」は、石見東部沿岸部のたたら製鉄の様子を生き生きと伝える注目される資料です。



たたら絵馬「鉄山大盛」(大田市久利町山邊八代姫命神社蔵)

石見国遷摩郡静岡村(現大田市静岡町)の前原家が経営した静岡村鉦を描いたものと思われる。高殿の形盛や原材料や製品を運んだ川船が見えるところに石見東部沿岸に展開した鉦の特色が表れている。

企画展

たたら製鉄と近代の幕開け

平成23年 10/7(金)・12/18(日)

(会期中の休館日: 10/18(火)・11/15(火))

# 『弥生ブロンズネットワーク』新たなステージへ

島根県埋蔵文化財調査センター 深田 浩（前古代出雲歴史博物館学芸員）

開館5年目を迎えた古代出雲歴史博物館。今後も平成24年の「古事記編さん1300年記念事業」に向けて多彩な展覧会やイベントが企画されています。

さて、当館では開館以来、歴史や文化を生かした「人づくり」や「地域づくり」に貢献するため、さまざまな形で県内外の他施設や各団体、学校との連携に取り組み、イベントや講座など交流・普及活動を実施してきました。

その中の1つに、出雲弥生の森博物館、加茂岩倉遺跡ガイダンス、荒神谷博物館と連携する『弥生ブロンズネットワーク』があります。この連携事業では、荒神谷遺跡銅剣発見日（7月12日）、加茂岩倉遺跡銅鐸発見日（10月14日）にちなみ、“銅”をテーマに関連する4施設を巡るスタンプラリーや合同イベントなどを行い、出雲の弥生文化や施設のPRに取り組んできました。



特に昨年度は、JR西日本の旅行プラン『出雲キャンペーン』に連動し、4つの施設を巡る“古代出雲浪漫バス”を県観光振興課や県観光連盟、旅行会社と連携して運行しました。7～9月の土日祝日の開催でしたが、猛暑の中でも延べ約300名の参加があり、なかなか好評だったようです。

またこのバスツアーでは、島根大学教育学部の協力を得て、学生によるモニター調査も実施。ツアー終了後には、この取り組みに対するレポートの提出や意見交換を行いました。

学生からは、「どの場所もそれぞれ違う魅力があって楽しめた」といった意見の他に、「滞在時間が短くて周辺の遺跡を見学する時間が足りなかった」、「バスの移動時間が長く退屈してしまう」、「ただ見るだけでなく学芸員による解説は必要」、「昼食を自由時間とするのではなく、コースに入れる工夫がほしい」など興味深い指摘もありました。

“古代出雲浪漫バス”は、昨年度の反省点もふまえ、今年度も継続して実施する方向で各施設と話を進めています。そもそも博物館巡りは観光素材としては厳

しいといった意見もあります。しかしながら、島根は他にはない文化財や史跡、神話の伝承地がまとまって存在する地域です。これを観光資源として活かすためには、関連施設や各団体が一体となった取り組みが必要なのはいまでもありません。今後も博物館とゆかりの地を結ぶネットワークを形成し、神話のふるさと・出雲の魅力をもっとPRしていきます。みなさまも是非イベントに参加していただき、ご意見・ご感想をよせていただければと思います。



## 当館で行われる交流プログラムのご紹介

古代出雲歴史博物館主任研究員 伊藤 徳広

4月と5月は各種学校の校外活動や、小中学校の歴史の授業の一環で見学に来る学校が非常に多くなる時期です。また、旅行や研修など各種団体のお客様も多数来館されます。

今回は、当館で行っている数多くの交流・普及事業のうち、学校教育活動との連携や団体見学への展示ガイダンスなど日々行っている交流プログラムを簡単に紹介しましょう(いずれも事前の申し込みが必要)。

### (1) 展示ガイダンス

展示ガイダンスでは、展示室見学前に学芸員が講義室においてプロジェクターなどを用いて視覚的にわかりやすく、館内の施設および展示の概要説明を行います。当館は常設展示を総合展示室とテーマ別展示室、神話回廊で構成しています。また、特別展示室では企画展や特別展などを行っているため、数多くの見所があります。そのため、事前に展示の説明を行うことで、より期待感を持って展示を見ることが出来ます。

それぞれの学芸員が経験したことなどが裏話として盛り込まれることもあり、大変好評です。



### (2) ミュージアム・スクール

ミュージアム・スクールでは、学校教育活動の一環で、体験工房と講義室を主会場にして、展示見学もおり交ぜながらの講座や体験活動を行っています。特に体験活動の和同開珎作りや勾玉作り、プラスチック銅鐸作りなどは大人気メニューです。講座も各種コースを用意していますので、詳細はホームページをご覧ください。

なお、学校が編成した教育課程に基づく活動(社会科等の校外授業や遠足)で来館・観覧される場合には、観覧料が全額免除されます。ただし、体験



学習を行う場合は、メニューによっては材料費が必要な場合があります。

このような、交流プログラムを実施しています。是非、皆様にご利用いただきたいと思っております。



## [アテンダントからのお知らせ]

### ● ご来館ポイントサービスが好評です! ●

パスポートのおすすめ

古代出雲歴史博物館に、いつでも・何度でもご来館をいただきますように、平成23年3月より、年間パスポートを更新されるお客様・新規加入されるお客様につきまして来館ポイントサービスをはじめとしています。

出雲大社の神苑を眺めながら、ゆっくりとした時間をお過ごしいただくために、5回来館(1日1回)いただくたびにカフェ「阿礼」の500円サービス券を進呈しています。わたしたちは、ひとりでも多くのおみなさまに、古代出雲歴史博物館のすばらしさを知っていただきたい、博物館に対してより親しみをもって接していただきたい、そしてゆっくりとくつろいでいただきたい、と願っています。みなさまのご来館を心からお待ちしています。

# 「さんいんさんぽ」

## 「青谷上寺地遺跡展示館」

～鳥取市青谷町～

地下の弥生の博物館  
青谷上寺地遺跡



鳥取県東部に位置する鳥取県鳥取市青谷町は、豊かな自然に恵まれ、農業と漁業そして和紙の町です。

青谷上寺地遺跡展示館は、青谷町で初めての大規模発掘調査となった、国史跡「青谷上寺地遺跡」(あおやかみじちいせき)の出土遺物を展示・紹介し、情報発信の拠点となることを目的に建設されました。

### 【国史跡 青谷上寺地遺跡】

平成20年3月に国史跡に指定された青谷上寺地遺跡は、国道「青谷・羽合道路」と県道「青谷停車場井手線」の建設工事に先立って行われた分布調査によって発見された遺跡です。両道路の用地内は平成10年から平成13年まで鳥取県が発掘調査を行い、縄文時代晩期から奈良時代ごろまでの遺物・遺構が検出されました。特に弥生時代前期末から古墳時代前期の数百年間は、大規模な土木工事を行いながら継続的にムラが営まれていたことがわかりました。

のどかな田園風景のなかから突然見つかった遺跡からは、土器や石器はもとより、腐食しやすい木器、骨角器、金属器などが大変良好な状態で大量に出土、注目を集めました。なかでも100人以上出土した人骨のなかの3人の頭骸骨に残っていた「弥生人の脳」は、日本考古学界の常識を覆す大発見でした。

さらに、当時の高度な土木技術を生々しく伝えてくれる溝の護岸設備を始めとした木造構造物、その材料として再利用された建築部材などから明らかになった木材加工技術や建築技術をはじめ、高度な技が集約された秀麗な木製容器、鍛打痕まで見取ることができるほど良い保存状態で出土した300点を超える鉄製品などが当時の生活を生き生きと伝えてくれます。弥生時代最長の柱やタルキ、東アジア最古の緑土使用例、日本最古の蟻巣、本州唯一の星雲文鏡の出土、類を見ない工夫が加えられた鉄製利器など、新発見も目白押しです。

これらの類まれなる多様な調査成果から「地下の弥生博物館」とも呼ばれ、考古学や歴史学はもとより、林業・建築・土木・造園・木工・鉄・工芸などを専門とする方々の関心も呼んでいます。

### 【青谷上寺地遺跡展示館】

青谷上寺地遺跡展示館は、鳥取県気高郡青谷町(現鳥取市)によって建設され、平成13年8月11日に開館しました。平成20年4月1日から指定管理制度が適用され、財団法人鳥取市文化財団が指定を受けて管理しています。平成23年度は開館10周年を迎え、入館者数も15万人を超える見込みです。



当館の活動の軸は、展示・イベント・体験学習です。

常設展示では、土器・石器・木製品などをはじめ、建築材や人骨、さらに「弥生人の脳」を含む300点あまりの遺物を写真パネル、解説パネルを使った解説を加えて展示しています。この常設展示は、コンセプトの変更とともに、約半数の資料を年1回のペースで入れ替えています。ご希望があれば必ず行う展示解説は、年間100回を優に越えます。

イベントや体験学習は、主に児童を対象としています。勾玉・土器・石包丁・釣り針など、ものづくり体験を通して弥生時代に触れて、理解して

いただくことを目的に行っています。

また、展示や体験学習以外の情報発信として、「青谷上寺地遺跡展示館講演会」を平成20年度から始めました。青谷町や近隣で講演経験のない学識経験者を青谷町にお招きする、「地元で開催する学術講演」にこだわった企画です。毎回70名ほどの方が青谷町内外から聴講にいらしてくださいませ。

加えて、地域の祭り、公民館活動、小学校行事への参加・協力にも積極的に取り組んでいます。

### 青谷上寺地遺跡展示館

〒689-0501 鳥取県鳥取市青谷町青谷4064番地  
TEL 0857-85-0841 FAX 0857-85-0844  
開館時間●午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日●月曜日(祝日の場合は翌日)  
祝日の翌日(土曜日・日曜日・祝日は開館)  
年末年始(12月29日～1月3日)

入館料●無料

交通●自動車…青谷・羽合道路 青谷インターから3分  
徒歩…JR青谷駅から3分



# 観音巡礼

2011年7月22日(金) → 9月25日(日)

## 中国路の古寺と仏像



重要文化財 木造薬師如来座像 岡山・餘慶寺蔵  
(写真提供:岡山県立博物館)



重要文化財 銅造観音菩薩立像 島根・純福寺蔵

この夏、中国路の仏様が歴博に集います。中国5県を代表する37ヶ寺が加盟する中国観音霊場会は今年で開創30周年を迎えます。それを記念して加盟寺院の文化財を一堂に展示します。仏像だけで24点(重要文化財が14点)、工芸品も10点(重要文化財が1点)、絵画も9点並びます。普段なかなか拝観できない仏像も多く、中国路の仏像をまとめて鑑賞するめったにない機会です。会期中様々なイベントも準備しています。ご期待ください。

「交流と連帯」をテーマに、やよいだんだんまつり開催！ 3月20日・21日  
クロスロードミュージアム

みゅーじあむ交流まつり 兵庫考古博物館や県内ミュージアムが施設紹介・体験ブースを設置。



兵庫県立考古博物館による「古代船づくりワークショップ」開催  
(しまね花の郷/出雲弥生の森博物館/宍道湖自然館ゴビウス/石見鶴山世界遺産センターも参加。)

「神々の国しまね」の情報発信舞台です。

古代から…2011…2012…2013…未来へ

古代出雲歴史博物館



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600代 FAX.0853-53-5350  
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



発行/平成23年4月



マスコミキャラクター  
雲太くん



マスコミキャラクター  
出雲ちゃん